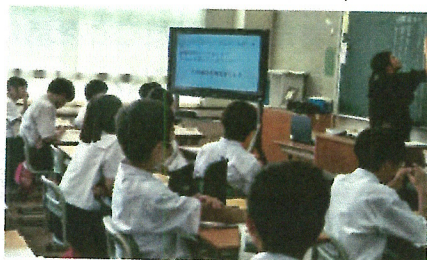
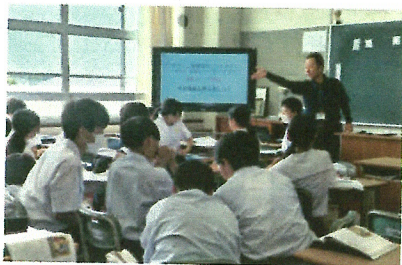




7/1~7/7 長崎っ子の心を見つめる週間 ~ご来校いただき感謝申し上げます~

7月1日（水）から7日（火）までを「長崎っ子の心を見つめる教育週間」と位置づけ、様々な教育活動を実施させていただきました。保護者の皆様、地域の皆様方には事前に案内を差し上げ、ご自由に学校の様子を参観いただくようご連絡させていただいたところです。

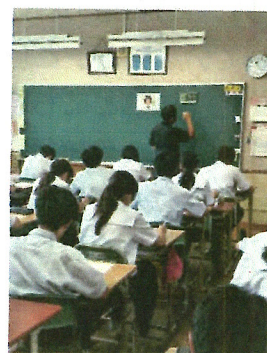
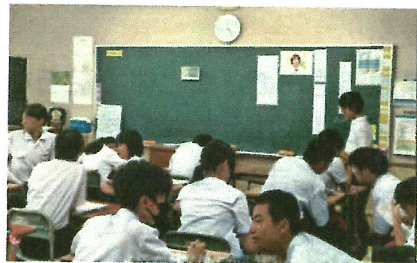
4日は「土曜授業」を行い、総合的な学習の時間（平和学習）や道徳の授業を多くの皆様に参観いただきました。お忙しい中本当にありがとうございました。3校時の道徳は、各学級で命について学ぶ授業を設定しました。1年生は「夕暮れどきの避難」、2年生は「おもかげ復元師」、そして3年生は「臓器提供」という内容でした。



いずれも命の尊さがテーマとなっています。命を守るためにどのように行動すればよいか、被災し亡くなった方々の思いをどう伝えるか、臓器移植についてどのように考えるか、といったことについて、生徒たちは様々な意見交換を行い、その状況でどうあるべきか、自分だったらどうするかを真剣に考えていました。

その後の学年・学級PTAは、それぞれ学年の様子についての報告、夏休みの過ごし方についてのお願いなどをお伝えしました。改めて配布資料の内容をご確認いただきたいと思います。

夏休みには、三者面談も計画させていただいていますが、何かご心配事などありましたら、学級担任までご相談いただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



7/1(水)校長講話

この日は1校時に時間をいただき、私の方から命の大切さをテーマに話をしました。大きく「命のバトンについて」「なぜ命は大切なのか」そして「本当に命を大切にしているのか」などについて話をしました。

命のバトン

質問します

あなたの1代前は父と母です。
2代前はそれぞれの祖父母で4人
います。では、10代前の先祖
は何人いますか？



生徒の皆さんは、この答えを覚えているでしょうか？

詩人 あいだみつおさんの「自分の番 いのちのバトン」とい詩を示し、10代前で1,024人、20代前で100万人を超えることを伝えました。参考までに、27代前になると1億3千万人を超えます。このようにつながれてきた命は「奇跡のバトン」と言われ、あなた自身はその「バトン」を引き継ぎ、「最新のランナー」として今を生きているのです。

しかし、そのバトンは突如とぎれてしまうことがあります。その一つとして、昨年度も話したことなのですが、東日本大震災に関する内容に触れさせてもらいました。一昨年前、私が長崎市内の中学生とともに被災地である福島県のいわき市を訪れたことを話しました。

あの日、一瞬のうちに日常を奪われた方々が大勢いました。命を失った方々もおられます。

これは、被災地のある小学校で撮影した写真ですが、卒業式を控えた状態の体育館です。本当なら卒業式が行われ、子どもたちは未来に向けて歩みを進めていたはずですが、その未来が失われたのです。そのことを考えると、私たちは命を大切にするという思いをもっと強く持たなければならぬのではないのでしょうか。



後半では、「長崎っ子の心を見つめる週間」にある「心を見つめる」とは、どのようなことなのかを考えてもらいました。おそらく、様々な考えが浮かんだことでしょう。私はこう考えています。

「自分は今どんな気持ちなのか」「なぜその行動をしたのか」「本当にそれでよかったのか」のように自分自身の心に向き合うこと、そして、「相手はどう感じているか」「自分の言動で相手は傷ついていないか」と他者の心を想像することなのではないか、と。

他者のことにも思いをはせることで、自分だけでなく、他人も大切な存在であると気づくのではないのでしょうか？ 当然のことですが、決して自分だけが大切だということはありません。なぜなら、人と人がつながりを持ちながら生活をしているのだから。

最後に、105歳まで現役で医療現場に立たれていた 日野原重明さんの「命とは君たちが持っている時間である」ということば、そして、お笑い芸人をされているゴルゴ松本さんの教え「『吐』という漢字からマイナスを消すと『叶』に変わる」ことについて紹介しました。

生徒の皆さんは真剣に話を聞き、学んだことや考えたことなどをしっかりとまとめてくれています。現在、一人ひとりの感想に目を通していただいています。後日、それぞれコメントを入れて返したいと思います。